

# テーマ3 公共施設の多様な利用

## ①資料館等を活用した地域交流と情報発信

【背景】地域の連携・交流を促進する河川管理施設の活用要望。

【ねらい】地域と協働し、環境教育や川と地域の歴史・文化を伝承する場として活用。



スタンプラリー



永山新川で遊ぶ子供達



第8回ながやま子どもの水辺協議会の開催

### これまでの取組

- ・平成16年3月 川のふるさと交流館さらら完成。
- ・平成16年4月 オープニングイベントの開催。
- ・平成16年10月 「さらら」を核とした「ながやま子どもの水辺協議会」を発足。
- ・平成17年1月 石狩川流域における各河川広報施設の連携利用について意見交換会を実施。
- ・平成17年3月 石狩川・川のミュージアムネットワーク発行。
- ・平成18年2月 石狩川治水学習館「川のおもしろ館」を核とした「あさひばし子どもの水辺協議会」を発足。

### 展開内容

- 北海道開発局と関係自治体及び市民団体等と協働して取り組みます。
- 取り組み概要
  - ・相互に特色のある展示ソフト等を交換しあったり、館内に共通のPRコーナーを設けるなど、連携効果を生かした展示施設の改善検討。
  - ・地域関係者と連携して地域交流を推進するとともに、川と地域の歴史・環境を学ぶ場としても活用されるよう整備と広報を実施しています。
  - ・流域の多面的な魅力にふれてもらえるようスタンプラリーを実施しています。
- 実施時期：平成18年7月15日～平成21年3月31日
- 実施主体：旭川・石狩川開発建設部、旭川市
- 実施場所：「川のおもしろ館」・「川のふるさと交流館さらら」・「川の博物館」・「ウォータヒルズスクエア」・「江別河川防災ステーション」・「川の科学館」
- 今後の展開
  - ・石狩川流域内の各河川広報施設の利用促進を図るため、周辺の他施設や地域関係者とも連携したネットワークの形成に取り組みます。

# テーマ3 公共施設の多様な利用

## ②シビックコア地区を活用したイベントの開催

【背景】シビックコア地区の整備が進み全体概要が見えつつある。

【ねらい】市民に対して地区の現状及び将来の姿を見ていただき、今後、施設の多様な利用から地区の賑わいをつくりだします。



### ○合同庁舎アトリウムの有効活用

市民講座、シビックコア地区見学会、おびつたまつりへの協力等。

### イベント内容

#### ○実施主体

北海道開発局営繕部、旭川開発建設部及び旭川市等が連携して実施。

#### ○取り組み内容

北彩都あさひかわ地区の中で国及び市の施設整備を進めている旭川シビックコア地区を活用した多様な利用を提案。

それらの呼び水として、平成19年9月29日、合同庁舎アトリウム等を会場に「公共建築の日 フェスティバル2007in北彩都」を開催し、子供・市民向けの体験参加型イベント(ダンボールシティ、気象観測機器展示、北方型住宅ペーパークラフト、模型耐力壁等)を行った。

## テーマ3 公共施設の多様な利用

### ③河川管理施設を活用した地域交流イベントの開催

【背景】地域の連携・交流の場となる「永山新川管理センター」の設置に伴う活用要望。

【ねらい】地域の方々と協働した地域交流イベントを開催することにより、地域と一体となった美しい川の保全、水辺づくり、川への親しみなど、河川愛護の普及啓発、情報発信、交流の場となるよう活用する。

平成18年7月の「ラブリバーinながやま」の様子



「カヌーやラフティングボート試乗体験」  
で川とのふれあい



「石ころアート」体験の様子

平成18年10月の「秋の永山新川まつり」の様子



盛況だった「新鮮な野菜即売、安全な  
農産加工販売」



「わら細工」に挑戦する子どもたち

#### これまでの取組と成果

- 平成16年3月に「牛朱別川分水路事業」が竣工して、新しい川「永山新川」が誕生し、その管理と水防の活動拠点として永山新川管理センター（川のふるさと交流館・さらら）が整備されました。
- これまでもここを拠点とし、地域の方々を主体とした各種交流イベントを継続開催しています。

#### 展開内容

- ラブリバーinながやま実行委員会・秋の永山新川まつり実行委員会と旭川開発建設部が協働して実施します。平成17年4月に「ながやま子どもの水辺協議会」が全国に登録され、子供達の水辺体験・環境学習等の活動拠点となっています。
  - 取り組み概要
    - ・年間を通して河川空間に親しんでもらい、地域の交流の場となるよう、カヌー・ラフティングボート試乗体験、地域の特色ある製品の紹介や販売などのイベントを地域の方々と協働して実施しました。
    - ・屯田兵村に始まる「ふるさと永山」の歴史や文化を地域の子どもたちに継承するための伝承遊びなどを実施しました。
- 実施時期：平成19年7月15日（日）  
平成19年10月7日（日）
- 実施主体：NPO法人、商工会、JA、小中学校PTA  
ながやま子どもの水辺協議会
- 実施場所：川のふるさと交流館「さらら」

## テーマ3 公共施設の多様な利用

### ④河川堤防や緊急用河川敷道路を活用した健康増進と河川啓発 ～みずウォーク2007北海道シリーズ旭川大会～

【背景】健康増進と水辺環境を見つめ直す目的で行われている全国的なイベントで、河川管理施設の使用やサブイベントなどの後援を行っている。

【ねらい】川のまち「旭川」において、川への親しみや健康増進を促すとともに、アンケート調査により河川空間利用等の要望を取りまとめ、より良い河川環境を目指している。

「みずウォーク2006北海道シリーズ旭川大会」の様子



スタート前の準備体操



旭橋を背景にウォーキング



川辺観察コースで楽しむ参加者

#### これまでの取組と成果

- ・平成9年 みずウォーク北海道シリーズ「旭川大会」初開催
- ・毎年同時期継続開催
- ・平成17年より新コースとして、約5kmの川辺観察ウォークラリーを設定し、途中クイズ等も出題し家族で楽しめるコースにしている。
- ・毎年300人程が参加しており、参加者からは「普段気付かない所も歩くことによってわかることが出来た」等、関心の高さもうかがえた。

#### 展開内容

- みずウォークは健康増進と水辺環境を見つめ直すことを目的に利根川から始まり、現在では全国展開されている歩くイベントです。
- 旭川開発建設部は河川管理施設(堤防や河川敷道路)の使用や川辺観察ウォークラリーなどを後援しています。
- 旭川大会においては、「福祉の川づくり」として整備されているリベライン旭川パークフラワーランドをスタート・ゴール地点とし、川の町「旭川」の良さを生かした石狩川・忠別川・美瑛川・牛朱別川の川沿いをコースに設定し、一度のイベントでこれらの主要な川に親しむことができます。

実施時期：平成19年9月1日(日)

実施主体：読売新聞、日本ウォーキング協会

実施場所：リベラインパーク旭川フラワーランド

# テーマ3 公共施設の多様な利用

## ⑤川の日ワークショップ ～川のまち旭川で「いい川づくり」を考えよう！～

【背景】河川事業への関わりについて、行政や住民(団体)の間で連携がとれていない状況で、協議の場、情報交換の場が必要となってきた。

【ねらい】川への取り組みを公開選考会で発表することで、相互理解と協働を深めていく。

平成19年度「川の日ワークショップin旭川」の様子



第1次選考の様子



復活選考の様子



表彰式



エクスカーシオンに参加

### これまでの取り組みと成果

○「川の日ワークショップ」の開催状況

- ・H14・7 札幌市
- ・H17.6.25・26 (土～日) 釧路市
- ・H15.4.26・27 (土～日) 帯広市
- ・H18.6.3・4 (土～日) むかわ町
- ・H16.6.26・27 (土～日) 蘭越町

○期待される成果

- ・河川に関わる人たちの交流の場を通じ、連携をとれる体制づくり
- ・河川事業への新たな取り組みや活性化への結びつき

### 展開イメージ

- 「いい川づくり」、「川での協働」、「川に学ぶ」の3部門で、各参加者が日頃行っている活動を発表することで、河川への関心を深めていき、よりよい川づくりに活かされることを目指します。
  - 公開選考会だけでなく、交流会や復活選考を行うことで、参加者同士の交流の活性化をはかり、各団体の相互理解や連携をとれるようになるための環境作りの手助けをしています。
  - エクスカーシオン<sup>※</sup>で旭川の河川に関わる場所や観光地をめぐることで、旭川と河川のつながりや旭川という地域を学んでもらい、地域の活性化に結びつくよう支援しています。
  - 開催内容
    - ・実施時期:平成19年6月2・3日(土～日)
    - ・実施場所:旭川勤労者福祉会館(2日)  
サン・アザレアホール(3日)
    - ・参加者:NPO法人、民間団体等
    - ・協働主体:第6回北海道・川の日ワークショップin旭川  
実行委員会
- ※エクスカーシオン…共同で行う野外調査。

## テーマ3 公共施設の多様な利用

### ⑥石狩川愛別頭首工を地域のシンボルに

【背景】石狩川愛別頭首工が平成19年度に完成

【ねらい】国道39号に隣接し、愛別町の公園に近接する頭首工・管理棟などを活用して地域の活性化を支援

頭首工完成イメージ(右岸側に愛別町公園の整備を計画)



魚類生息に配慮して、魚道を設置しています

地域の方々にも活用していただく管理棟

### 展開イメージ

○石狩川愛別頭首工の周辺整備では、

管理棟の整備に当たって、駐車場、トイレの位置に配慮するとともに、管理棟の解放、案内版の設置など、教育活動への支援、公園利用者の利便性を高めます。

○平成19年度は、愛別町公園構想の支援として、残土活用や管理棟周辺の整備を行いました。

### これまでの取り組み

- 石狩川愛別頭首工は、愛別町、比布町、旭川市、鷹栖町の約3,300haの水田の農業用水を取水する施設として、平成19年度完成しました。
- 農村環境・景観プロジェクト会議(愛別町)などの場で、新しい頭首工を活用した周辺整備のあり方について話し合われています。
- 国道39号沿いの公園へのアクセスに配慮した道路整備(歩道)は平成17年度に完成しています。
- 頭首工導水路上の有効活用として、「ふれあい道路の創出」(散策路)、アジュガの植栽(花)、維持管理(除草、花摘み)をしています。
- 頭首工を活用した、地域の小学生の課外授業を支援しています。
- 平成18年度から、残土を活用した周辺整備を実施しています。

# テーマ3 公共施設の多様な利用

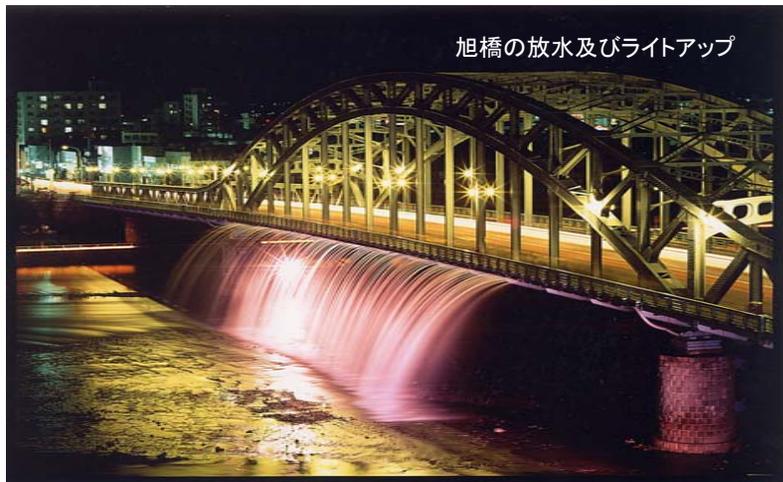
## ⑦夏まつりにおける国道40号の活用

～土木遺産「旭橋」など公共施設が夏まつりを盛り上げます～

- ・【背景】土木遺産として旭川の象徴的な存在で愛着も深い旭橋を後世に引き継ぐため、地域活性化の核として地域イベントと一体となった活用が求められています。
- ・【ねらい】国道40号の旭橋など公共施設の多様な利用により、観光のイメージアップ支援などの地域振興。

### 実施状況

旭橋の放水及びライトアップ



### 展開イメージ

○旭川夏まつり実行委員会と連携し、旭川開発建設部は期間中、旭橋からの放水及びライトアップを行い、真夏の夜の涼を演出しました。

実施個所：国道40号（石狩川旭橋河畔）

実施時期：平成19年7月28日～8月4日

協働主体：旭川開発建設部、旭川夏まつり実行委員会、旭川市

○旭川開発建設部は、旭川夏まつり実行委員会、士別天塩川まつり実行委員会と連携し、交通規制情報を提供することで、国道40号を安全な会場として確保し、夏まつりのフィナーレを盛り上げました。

実施箇所：国道40号（旭川昭和通り、士別市1丁目～8丁目）

実施時期：平成19年8月2日～4日（旭川）、平成19年8月14日、17日（士別）

協働主体：旭川開発建設部、旭川夏まつり実行委員会、旭川市、士別天塩川まつり実行委員会、士別市

### これまでの取組みと成果

- ・旭橋60周年(H4)、70周年(H14)に放流を実施
- ・烈夏七夕まつり旭川のパレード会場として、H18に初めて実施
- ・旭川夏まつり期間中の観光客総数587千人(H18)
- ・H18、士別天塩川まつりのメイン会場として、21年ぶりに実施
- ・士別天塩川まつり期間中、昨年より6千人多い、16千人の市民が詰めかけた。